



— 古事記から —

出雲八重垣 妻籠みに
八重垣作る
その八重垣を

八雲やくもつ

表紙写真

北海道木彫熊発祥の地八雲
柴崎重行氏制作地

とっておき八雲な物語
てくてくぶらりエイトビートな八雲旅



八雲町の観光と物産の情報は八雲町情報交流物産館「丘の駅」へ

北海道二海郡八雲町浜松368-8北海道自動車道PA・道立公園噴火湾パノラマパーク内
<http://yakumo-okanoeki.com/>



[発行] 一般社団法人八雲観光物産協会

[事務局] 八雲町商工観光労政課

〒049-3192 北海道二海郡八雲町住初町138番地

TEL 0137-62-2111 FAX 0137-62-2120

<http://www.town.yakumo.lg.jp/>

[Edit] Labbott Co., Ltd.

[Design] R. Wakai

[Illustration] S. Sasaki

[Photograph] I. Sasaki



太平洋と日本海、 日本で唯一 二つの海をもつまち

日本海 | 奥尻島と熊石地域の間に沈む夕陽

北海道の八雲町は、日本で唯一太平洋と日本海の二つの海に面した町です。また、町内の八雲地域（太平洋側）と熊石地域（日本海側）を結ぶ国道277号は、日本で最短の太平洋と日本海を繋ぐ道ともいわれています。ちなみに国道277号は、八雲と熊石から一字取って雲石峠または八熊線ともいわれ、その紅葉は道南八景に数えられています。雲石峠の脇にそびえたつ雄鉾岳からは、日本で唯一太平洋から上る月と日本海に沈む太陽が同時に眼下に見えます。

八雲町は、二つの海と真ん中でそれを隔てる山々がある為、八雲地域と熊石地域では気候が異なるのもさることながら、それぞれ異なる開拓の歴史を持つており、八雲地域は尾張徳川の歴史、熊石地域は松前藩の歴史があり、同じ町の中に異なる歴史文化が存在している珍しい町でもあります。

CONTENTS

- 1 木彫り熊の発祥 3
- 2 バター飴の発祥 5
- 3 ペコちゃん伝説 7
- 4 ザ・タイガース「花の首飾り」原作詞の地 9
- 5 遊楽部鉾山の歴史と伝説 11

Yakumo
八雲町



1 木彫り熊の発祥

大正13年に誕生、
90年の年輪刻む

北海道の木彫り熊発祥の地は、八雲です。八雲の木彫り熊の起源は、徳川義親公が諸外国を旅行しているときにスイスで木彫り熊を見つけ、農民の副業にいいのではと考え、1923年に彼がスイスから持ち帰った木彫り熊を参考に「とにかく作ってみろ、できたものは私が買いあげるから」と言っ

小熊を飼育して
モデルとした

八雲の木彫り熊は他地域の木彫り熊と違い、肩から菊のよう

表情が柔らかく戯れている様子やメタボ体系の木彫り熊が多く見られ、他地域の木彫り熊と比べると愛くるしくなっています。また、八雲の木彫り熊が鮭をあまり啜っていないのは、野生の熊をモデルにしていない背景があると言われています。



●木彫り熊士の認定証
木彫り熊の知識を深めると授与される



●スイスの木彫り熊(右)と
北海道木彫り熊の第1号(左)
大きさは全長10センチ弱の可愛い作品で、酪農家の伊藤政雄氏の作品(八雲産業所有・郷土資料館)
【作品/1924(大正13)年】



●柴崎 重行氏
1905(明治38)年～
1991(平成3)年
八雲町鉛川で生まれる。
「毛彫り」とは違った「ハツリ彫り(手斧による一刀彫り)」による独特の作風は「柴崎熊」と呼ばれ人気を博した



●茂木多喜治氏
1902(明治35)年～
1976(昭和51)年
農業をやめ木彫り熊を専門とし、多くの後進を育てた



●木彫り熊まち歩きツアー
街中にある木彫り熊ゆかりの場所を巡ると、歴史にちなんだ菓子店で八雲スイーツが楽しめる



●八雲農民美術研究会熊彫り講習会(八雲町史)



●「木彫り熊北海道発祥の地」
記念碑(公民館)

◆尾張徳川入植の歴史

尾張徳川入植は、旧尾張藩主徳川慶勝公が北海道開拓と併せて旧臣授産のため、八雲(遊樂部)の土地の下付を願い出て家臣団を移住させたことから本格的に開拓が進められたとされています。また、この様な民間資本による集団移住は、北海道開拓移住の先駆けとなり、その後の毛利家、前田家、鍋島家などの士族移住の手法となりました。ちなみに慶勝公は、北海道開拓地選定のため3名の家臣を派遣し、事前に北海道各地を回って調査させています。この選定が八雲の天候の良い9月だからこそ遊樂部が選ばれ、もし調査が天候の悪い5〜6月だったら、遊樂部は選ばれなかったかもしれません。



●徳川 慶勝公



郷土資料館では、木彫り熊を含め旧石器時代から近代までの八雲町の歴史をテーマごとに展示。

2 バター飴の発祥



●搾乳風景(昭和30年代)
搾乳も手搾りのどかな
酪農風景(八雲町史)

●乳牛育成牧場
育成牧場では、酪農家が夏のあい
だ若牛を放牧させています



●乳製品
酪農王国八雲では牛乳、チー
ーズなどの加工品も豊富だ



●現存する北海道最古の
レンガサイロ
三澤牧場のレンガサイロは、
1921(大正10)年に建てら
れた。八雲町には、多くのレン
ガサイロや牛舎が残っている



●幻の「元祖榊原のバター飴」
今や北海道土産としてお馴染み
のバター飴も、八雲発であった



北海道を代表する
銘菓も八雲にあった

八雲には、馬鈴薯澱粉が盛んな時期がありました。それに伴い、澱粉を原料とした「澱粉飴」が作られ、1916年に榊原安茂氏が澱粉を原料とした水飴を製造するようになりました。その後、彼は研究を重ね、独自の製法で澱粉飴の中にビート糖やバターを配合したバター飴を創製し、製法特許を取得し、八雲の特産品として販売し、元祖の地歩を築きました。その後、有名無名メーカーも競ってバター飴を製造販売するようになりました。

トラピストバター飴の起源

あの有名な、トラピストのバター飴の製造を教えたものの榊原氏です。榊原のバター飴は、他のものに比べあっさりしていて、

◆デンマークに学んだ北海道酪農の先進地

今は昔、全道府県から「酪農は八雲に学べ」と言われる時代がありました。北海道における酪農の歴史を紐解くと八雲は北海道酪農の発祥地として位置付けられています。八雲の農業は、第一次世界大戦以前は馬鈴薯澱粉で大いに賑わっていました。しかし大戦後、外国の澱粉工場が増え輸出量が激減し価格は暴落。加えて馬鈴薯の連作で土地は痩せ、八雲の農業は方向転換を迫られました。その一つの方策として八雲の農業は、有畜農業、そして酪農へと舵取りをしていきました。

当時デンマークは、小さな国土で寒地・痩せた土地でありながら世界の酪農王国として農業経営で大成功を収めていました。八雲に酷似した条件で成功を収めていたデンマーク農業に注目した当時の八雲の指導者たちは、多くの若者を研修生としてデンマークに送り出しました。この様に地域の組織ぐるみで酪農に力をいれた結果、八雲は酪農の先進地として周知されるようになり、各地からの研修視察を受け入れることになりました。この事により、八雲は北海道酪農の発祥地としてのイメージが定着しました。



●バター飴製造機(郷土資料館)

べつつかない独特なものでありました。榊原の「元祖バター飴」の製法は二代目榊原幹男氏に引き継がれましたが、後継者を育てることなく2004年7月に幹男氏が亡くなりました。八雲町の方が中心となつてなんとかこのバター飴を復活させようと活動していますが、榊原の味を再現出来ずにいます。また、榊原氏が当時使用していたバター飴製造機は、八雲町郷土資料館に展示されており、今でもバター飴の匂いを感じることが出来ます。

3 ペコちゃん伝説



©FUJIYA CO.,LTD

ペコちゃんのモデルは八雲町民？

今では誰もが知る不二家のペコちゃん。その人気キャラクターにモデルはいたのでしょうか？不二家の公式発表によるとペコちゃんの出身は、「地球上のどこかにある夢の国」とされている以外、ペコちゃんのモデルにつきがりそうな情報は見当たりませんでした。しかし、とある情報によると、ペコちゃんのモデルは八雲町の「あすなろ牧場」の一人娘ではないかと言われているそうです。八雲町では、この情報を得た当時あすなろ牧場について調べたそうですが、あすなろ牧場という牧場は現存しておらず、残念ながらその牧場が過去にも実在したのかどう

か分らなかったそうです。ただ、ペコちゃん人形が店頭デビューしたのは1950年頃。その時代は、八雲の農業が酪農に大きくシフトしていく時代でもあります。当時、八雲は他地域より先んじて近代酪農様式を積極的に取り入れていたこともあり、不二家の社員が視察の為に八雲町を訪れ、その時に見かけた牧場の一人娘にふとペコちゃんのイメージを得たとしても不思議ではありませんよね。また、ペコちゃんのモデルの噂は、今でも八雲の酪農家の間で語り継がれています。



●集乳缶
昭和40年代頃までは、これに牛乳を入れて工場へ出荷していた（郷土資料館）

ミルキーも八雲の味だった

実は不二家の「ミルキー」の原材料の生乳の半分ほどは、道南の牛乳が使われており、その多くは八雲の酪農家が出荷している牛乳です。つまり、「ミルキーは八雲の味！」なのです。



今も昔も
変わらない人気の
ペコちゃん



©FUJIYA CO.,LTD



●雑誌「Lapita」（小学館）に掲載された八雲町にまつわるペコちゃん伝説
【出典／Lapita2005年12月号より】



●この子は平野牧場のいづみちゃん
八雲にはペコちゃん似の子どもたちがいっぱい！



ミルクロード沿いには多くの酪農家が牛舎をもち、その道は乳牛牧場につながっています。また、遊楽部公園には、乳牛の親子のオブジェが建っています。

4 ザ・タイガース「花の首飾り」原作詞の地

歌詞の誕生は
八雲町だった!?

1960年代後半に活躍したグループサウンズ「ザ・タイガース」が2013年12月に44年ぶりに再結成することになり、ザ・タイガースのドラマー 瞳みのるさんのインタビューが北海道新聞（平成25年11月12日）で取り上げられていました。その記事によると、八雲高校に通う女学生が、ザ・タイガースのヒット曲の一つである「花の首飾り」の誕生に大きく関わっているということです。1967年、月刊雑誌「明星」誌上でザ・タイガースが歌う詞を一般公募する企画があり、多くの応募者の中から入選したのがこの八雲町に住む女学生の詞だった



ザ・タイガース
花の首飾り物語
瞳みのる著

原作詞者を訪ねて八雲町を訪れた瞳みのるさんが、「花の首飾り」の原風景に出会う。

●小学館 2013年11月29日発売
●価格1,575円
●ISBN 9784093883405

ザ・タイガース
瞳みのるさん

この本により、穏やかな風が流れる北の町・八雲町へのご理解を深める方がおられると、いち八雲ファンとなった筆者としては、この本の書き甲斐があったと感じ、心から嬉しい。（「ザ・タイガース花の首飾り物語」より）



たそうです。

花の首飾りは
八雲町の風景から?

「花の首飾り」の作詞のきっかけになったのは、当時この女学生の周りで花を摘んで首飾りを作るのが流行っていたことと、花の首飾りから思い浮かんだバレエ音楽「白鳥の湖」の物語と書かれています。この作詞公募期間は11月頃から2ヶ月間だったようで、この時期は八雲町に多くの白鳥が越冬のために飛来します。そう考えると、白鳥の湖のイメージを連想させる要素は八雲の日常風景の中にあり、八雲の豊かな自然が花の首飾りを誕生させたと思うのは少し無理があるでしょうか。

●さらんべ公園
遊楽部川沿にあるさらんべ公園で
花飾りをつくるお母さんと子どもたち
(5月頃)



●花のまち
八雲は花のまちでもある。福寿草、桜、ツツジ、水芭蕉、カタクリ、ニリンソウ、エゾノリュウキンカ、すみれ、タンポポ、ヒマワリなどなど（雪解けの3、4月頃から初夏にかけてが見頃）

花の首飾り ザ・タイガース

●作詞 菅原房子 ●補作詞 なかにし礼
●作曲 すぎやまこういち

花咲く 娘たちは
花咲く 野辺で
ひな菊の 花の首飾り
やさしく編んでいた
おお 愛のしるし 花の首飾り
私の首に かけておくれよ
あなたの腕が からみつくように

花つむ 娘たちは
日暮れの 森の
湖に浮ぶ 白鳥に
姿をかえていた
おお 愛のしるし 花の首飾り
私の首に かけて下さい
はかない声で 白鳥は云った

涙の白鳥に
花の首飾り
かけた時 嘆く白鳥は
娘になりました
おお 愛のしるし 花の首飾り
おお 愛のしるし 花の首飾り
(JASRAC H1400816-101)

●遊楽部川に飛来
する白鳥
(11月頃～3月頃)



町民の憩いと安らぎの場さらんべ公園・遊楽部公園と、その間を流れる人工的な堰のない遊楽部川。



5 遊楽部 鉾山の歴史と伝説

金銀の夢求めて、
日本初の
鉾山発破を行う！

1969年に閉鎖された遊
楽部鉾山は、現在のおぼこ荘

の奥にありました。この鉾山
は、北海道の中で最も古い鉾山
の一つであり、1862年には
アメリカの地質・鉾山の専門
家ブレイクとパンペリーによっ
て日本で初めて火薬の使用に

よる採掘発破が行われました。
当初は銀・鉛・金など、
1969年の閉山頃には桜マン
ガン・鉛などが採掘されていま
した。



謎多き鉾山？

鉾山にまつわる謎も多くあり
ます。例えば、鉾山共同浴槽を
壊した時に発見された「金の櫛」
(八雲町郷土資料館にて展示中)
により、隠れキリシタンである
東北のとある大名の御姫様
のお墓があるとか、鉾山の若い奥
さんが畑を耕していて金塊が
出てきたことから、箱館戦争で
負けた徳川脱走軍の埋蔵金
があるとか——などの伝説があ
ります。また、鉾山経営者が地
元の学校の校長を坑道内に案内
したところ、地上に戻ってきた
校長が「地下で竜宮城を見た」
と言ったそうです。この校長は、
坑道の中で一体何を見たので
しょうか。

鉾山共同浴場の第二温泉は、
現在は「町営鉛川温泉」の露天
風呂として温泉ファンに根強い人
気を持っています。風呂上がり
に「金の夢」を見ながらまどろんで
みませんか。



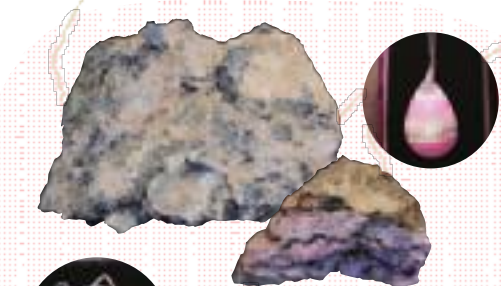
●鉛川と雄鉾岳
人の横顔に見える雄鉾岳と鉾山の生活を支えた鉛川



●当時の鉾山焙焼炉1940年頃か(八雲町史)



●鉛川温泉露天風呂



●桜マンガン
マンガンが採れた頃、八雲の女性
は桜色のアクセサリをよく身に付
けていたとか(郷土資料館)



●鉾石用の石臼
鉾石の中に入っている金を取り出した
(郷土資料館)



●発見当時に騒がれた「金の櫛」
(郷土資料館)



●鉛の延べ棒
内浦湾の海の中から
発見された「ユウラップ」
の刻印がある鉛
(郷土資料館)



道南八景に数えられる紅葉が見
られる国道277号(雲石峠)と
八雲のシンボル雄鉾岳。

まだある♪ 二海八雲に まつわる物語

さらに!!

太平洋側の落部地域では

アイヌ民族として初めて皇居に招かれ、明治35年の八甲田雪中行軍遭難事件で救助捜索隊として活躍した辨開胤次郎にまつわる物語。

もっと
もある!

太平洋側より

数百年開拓の歴史が古い 日本海側の熊石地域では

実在したけどその場所が全く分からない遊楽部
鉱山幻の索道。

松前藩のお家騒動で無念の死を遂げた柏巖和尚
の呪いとその舞台の門昌庵の物語。

観光名所で天然記念物に指定されている和人とア
イヌ民族の戦にまつわる奇岩雲石とその伝説。

そして、なぜか各神社にご神体として祀られてい
る円空上人作仏像と円空上人の物語。

北の大地、日本海側と太平洋側の両方にあつた
和人最北の番所(関所のようなもの)のお話。

などなど、

二つの海をもつまち八雲にまつわる物語は——
まだまだ続く——



⑧ 太平洋



③ 秋の落部神社
例大祭海上渡御



② 山車行列



① 熊石のあむの里
フェスティバル



⑥ 道立公園噴火湾
パノラマパーク



⑤ 冬の雄針岳



④ 収穫の秋



⑦ 日本海の夕陽



この小冊子は八雲をこよなく愛する八雲人が、
八雲をもっと知ってもらおうと作成しました。
既知・未知の八雲を
少し角度を変えたところから紹介します。
町名の「八雲」は明治14年に徳川慶勝公が、
古事記の
『八雲立つ 出雲八重垣妻籠みに
八重垣つくる その八重垣を』
という和歌から引いたもので、
「八雲立つ」は雲が幾重にも湧き立つ、
勢いがある様を表わしたものです。
これを、
「8ビート」のリズムに重ね合わせてみました。
これまでとは、ちよと違った
八雲に触れてみて下さい。